



広島大学留学生センター

日本語研修コース

第38期 (2004年4月～2004年9月)



成果発表会

2004年9月6日(月)

目 次

1. 私の日本でのせいかつ
B.A.ベンマティ・マーラン (インド) 1
2. ジョグジャカルタ, 美しいところ
アグス・フルワント (インドネシア) 5
3. 夢
ガリエゴ・ニーニャ・アルテリス・ロドリゲス (フィリピン) ... 9
4. 留学
ホンドマー・エンハツアツラル (モンゴル) 14
5. 日本の生活, アルゼンチン風
アルゲロ・ルイス・イグナシオ (アルゼンチン) 19
6. ヤキマニソバ
バホス・ブレノ・エドワルド・ダ・シルバ (ブラジル) 22
7. アテネ・オリンピック
オグエル・ジョセフ・カリルス・アテン (ケニア) 26
8. 私の国, ケニア
キサンギ・アルバート・カエサ (ケニア) 29
9. かぞく
マハムード・マハムード・モスタファ (エジプト) 31
10. 箸で食べる
ホサイン・クアズィ・デルワル (バングラディッシュ) 35

サルセケノフ・アルマン・マリコピッチ (カザフスタン)

私の日本でのせいがつ

ベンマテイ・マーティン

4月6日におおさかにつきました。そして
3じご3しんがんせんで東広島市につきました
た。私は広島大学のほががあがみせんせいと
日本人の学生のグループにわたたかいかんげ
いたうけました。ほががせんせいとはとてもし
んせいでま。みじがいあいたにおおくのことを
をあたしたちにせつめいしてくれました。ま
して、せんせいのえがおをみるで日本のひと
びとの長生みのひみつがよくりがいできまし
た。おらいによつてじんせいを長くする、こ
れがいまのせがいでゆるうのスローガンです！

わたしは、げんたいしてきほよのせつびをこ
ほえたあてきほへがをてたいれました。そし
て、まごがかりにんのゆるうこさ人のあかげ
で、とてもがんとんにせいがつのシステムを
りがいあることができました。かの女にはか
んしがしています。さいしょの日に私のへが
でおおつかせんせいにあいました。せんせい

が私にしめしたがいこく人にたいするそんなけいとおもてたしこのころにおどろきました。つぎの日、市がくしよおぎんこう坂どに行つて、私の日本でいかにつかはじまりました。こうおいんのしごとのおりがたをみると、じぶんのくにとひかくして、すばらしく、かんしんしました。

それから4月12日に、私たちの学校せいかつかはじまりました。このへかにあわり、わたせんせいの日本語をきいて、目をぱちくりさせていました。5か月のいま、みなさんはわたしたちが日本語でスピーチするのをきいて、見えています。これは、すばらしいことです。

私たちがせんいんは、しゅうちゅうてきにじゅぎょうにしゅっせきして、日本語や日本の文化、かちかん、れいきについて多くのことを学びました。私は、たくさん人のビデオを見ましたが、すもうと「ヤンさん」とおがたせんそうてはくした子どもたちのものがたりを

おぼえています。

スタディーツアーとして、広島市、みがじま、マツダこうじょうの三かしょに私たちをつれて行ってくださいました。すべてのせんせいにがんしおします。じゆうな時間お休日にはおおつかせんせいがたけはらのじっけんじょうにつれて行ってください、とてもあたらしいけんきゅうきじゅうつをおしえてくださいました。私が会ったたけはらの学生は、とてもけんきょでしんせつで、たがいにえいきょうしあってとてもあはらしいです。

夏休み期間に、あうじつ長ききに行き、またなんどもたけはらに行きました。ホストファミリーのうちにとまりました。子どもたちとあそび、とてもたのしかったです。今でもまったくわがらなにかんじをべんきょうしたいで、とてもよい時間をあごしました。さしみ、てんぷら、おこのみぎき、ほしを食べおいしいおさけをのみました。

りゅう学生センターでは、日本語を学んだ

だけではなく、しががいの中でのこゝろの
しがたを学びました。インドにかえったとき
には、私はがはらす"日本文化のがちがんにつ
いてははらすでしょう。

私のへたは日本語をきいてくれた"さってあり
が"とうござ"います。

すべてのせんせいとホストファミリーのみな
さん、ともだちのみなさんにがんしがしてい
ます。

ジ ョ グ ジ ャ カ ル タ 、 ^{うつく}美 し い と こ 3

ア グ ス 。 プ ル ワ フ ト

ジ ョ グ ジ ャ カ ル タ は ジ ャ フ と う の ^{みなみ}南 の ほ う

に あ り ま す 。 私 た ち は ジ ョ グ ジ ャ と い い ま す 。

む か し は ~~タ~~ ラ ム の ^{あう}王 國 で し た 。 い ま 、 し 3

は ま た あ り ま す 。 ^{けん}元 ^{しゅ}音 が ま た い ま す 。 ジ ョ グ

ジ ャ は ^{をう}教 ^い育 の ^あ母 で す 。 た く を ん が っ こ う が あ

り ま す 。

ジ ョ グ ジ ャ の ^{せい}生 ^{かつ}活 は ^{へい}平 ^わ和 で す 。 人々 は し 人

せ つ で す 。 み ど り の ^た田 人 ほ が た く を ん あ り ま

す 。 ^{また}比 の ほ う に メ ラ ビ ^{やま}山 が あ り ま す 。 ^{たか}高 く て

を れ い で す 。 ^じ自 ^{せん}車 ^{しゅ}車 と ア ン ド ン と ベ チ ャ は ^{たい}大

せ っ 切 な ^{もの}乗 物 で す 。 ア ン ド ン ほ う ま の タ ク シ ー で

す 。 ベ チ ャ は ^じ自 ^{せん}車 ^{しゅ}車 の タ ク シ ー で す 。

ジ ョ グ ジ ャ に は た く を ん い い と こ 3 が あ り

ま す 。 ^{バツ}仏 ^{じん}殿 は ボ ロ ブ ド ウ ー ル や プ ラ ン バ ン ア

ン ヤ メ ン ド ウ ト な ぞ で す 。 ^{かい}海 ^{がし}岸 は パ ラ ン ト ウ

リ テ ィ ス ヤ サ マ ス な ぞ で す 。 ほ か に は マ リ オ

ボ ロ ヤ コ タ ゲ デ ヤ タ マ ン サ リ な と で す 。

ボ ロ ブ ド ウ ル は ^{せい}世 ^き紀 に た ち ら れ ま し た 。

これは仏教のミツモノズ、カベにはたくとん
えがあります。これは^Fた人いつせいの中にミ
ういがあるといひみず。

プランバンアンのミツモノズ、うのた
て物ズ。プランバンアンにたてられました
かる、プランバンアンのミツモノズといひます。
ほかのなまえはチャンティシワズ。プラン
バンアンは900年ごろホコのあうこのしや
とぞした。

パラントウリテイストサマスはをれいほ^か海
松岸^松ズ。シヨグシヤカルタの^南のほうにあり
ます。ふたつはインド^洋の^か海^松岸ズ。シヨグ
シヤカルタからのきょり27KMぐらひズ。こ
こにはたくとんいひところがあります。たと
えばプランクスモ、パラントウ^全ダン、ランセ
のどろくつ。^{たか}高い松みずから、おまひでは
行けません。

マリオホロはメインストリートズ。たくと
んみせかあります。おみやげを^か買^買りたいを
^{いろ}色々な^物物が^か買^買えます。パティクヤフヤンヤク

リスなど"があります。バティックはジャワのふ
くです。今、パティワはインドネシアをだ
ひまうするふくになりました。

老人のかざりを^{四百}買ったとき、コタゲテへ
行きます。ここに^{たぐん}の^{たぐん}みせと老人のかざりのこ
うじまうがあります。むかしはコタゲテはマ
タラムのしやとでした。1640年ごろです。
コタゲテはふるい、^{へい}幸^{わか}な^ま町^まです。

せし、みねとんがジヨグジヤカルタへ行っ
たら、フテウイタマンにとまっ。そみそくたを
い。ここにはたくさんやすいホテルがありま
す。ねだんは^四百^円から^三千^円ぐらいまでで
す。ながい間とまるのはら、ねだんはこ
うじまうでます。

ほかのあもしろいとこはジヨグジヤカル
タをうでんとす。ところのなまえはケダト
ンです。このしらのたてかたはふかいうつが
くがあります。たてものて木とにわは人のせ
いかつのシンボルです。

みねをま、ジヨグジヤカルタへ行っ。て見

くださひ。ありがとうさまです。

「夢」

がリエーゴ・ニニヤ

高校二年生の時にアメリカの学校でフランス語を勉強しはじめました。その時使った教科書は英語訳が付いていたので、本当に便利でした。そして、フィリピンに帰ってから、フランス語を勉強し続けながら、日本語を勉強しはじめました。期待に反して、国のフランス語学校で使われた教科書は英語訳もないし、先生も媒介語を使わないので、フランス語の勉強は難しくなり、途中でやめました。一方、日本語学校で使われた教科書には英語訳はありましたが、本の後ろにあったので、見るのが面倒くさいと思いました。それでも、外国語を勉強したかったので、頑張って勉強を続けたおかげで大切なことが分かってきました。それは外国語を勉強しても、伝えたいことは母語から一語一語そのままの外国語に訳すことができないわけではないということです。

たとえば、日本語の「どうぞよろしくお願
いします」という表現は場面によって意味が
違ってきます。フランス語では、初めて会っ
た人に「アンジュンテ」と言いますが、それ
をそのまま日本語に訳すと「あなたに会えて
うれしいです」になります。こういうと、と
ても変に感じないでしょうか。やはり外国語
は一語一語そのまま翻訳するこゝが出来ない
ということでしょう。

しかし「夢」という言葉ほどの言語にも、
同じ意味の言葉があり、オグ頭に浮かぶと思
います。夢は英語で「ドリーム」と言います。
そして、フィリピン語では「パソガーラップ」
です。「夢」は抽象的な言葉ですが、言語を
問わず、この言葉の概念はきっと同じでしょ
う。私がここにいるのも皆さんと同じように
夢を抱いているからです。

小さい頃、「ニーニヤちゃん、何にないた
い？」と周りの人によく聞かれました。その
頃はあまり考えないで、「お医者さんになり

たい」とお答えしていました。その頃の私はまだ夢を抱いていませんでした。ただ周りの人に合わせて、そのように返事をしただけです。しかし、大人になって、自分の本当の夢をやっと持てました。それは、フィリピンと日本の架け橋になることです。子供の頃の私の答え方だった医者でも、弁護士でも、どんな夢でも叶うのだというところが分かってきました。つまり、将来、フィリピンで日本語の教師になっても、翻訳家、通訳になっても、どんなことをやしても、こちらに留学できたらおかげで、夢であるフィリピンと日本の架け橋になれるということです。だから、今教えていただいている先生が私に深く感謝いたします。先生が私のおかげで、毎朝目が覚めると、私の夢が実現する日が近づいてきているような感じがして、もっとも、と頑張ろうという気持ちでいっぱいになります。

外国語を身につけることは非常に大切なことだと思えます。昔の人々も外国語を武器に

して、自分たちの文明を広げていきました。
現代の人々も外国語を使いこなせるから、他
の国の人々と商売していません。これから、私
たちは一人一人、自分の選んだ道を行く中で、
日常生活でも専門の勉強でも日本語が必要に
なり、勉強しななければならぬでしよう。
もしがすると、この日本語研修コースを修了
してから、日本語を勉強しようと思う学生は
そんなにいないかもしれません。しかし、私
たちは日本にいらるうちに、日本語を身につけ
た方がいいだろうと思います。

日本語は日常生活で役に立つのはもちろん
ですが、それより自分の国の言葉を意識させ
てくれることに意味があると思います。そし
て、こちらで生活する中で、自分の国の文化
がどれほど自分にとって大事なものであるか
も気づかせてくれます。皆さんは自分の夢を
叶えたいと思つて、こちらに来ていますが、
実は私たちがもっと重要な役割を果たさなけれ
ばならないと思います。自分の国の代表とし

て、自分たちの文化や習慣などについて他の
国の人々に理解させることができれば、文化
摩擦や誤解を防ぐことができるでしょう。平
和を求める運動の歴史が長い広島で生活する
ことになった私たちは、皆で世界平
和という人類の夢を叶えましょう。

留学

インフツァ ツラル

日本に来たり、帰ったりして、日本での生活期間を合わせると約2年になるが、ここで分かったことは二つあります。

一つは、違う社会、文化に触れることで考え方が大きく変わるということです。

一人で全く違う環境の中で長い間家族、友達と離れて暮らす、それも言語や社会の違い、コミュニケーションギャップなどの問題を抱えながら上手く対応していく能力が求められます。考えていることを他の言語で上手に言い表すということはその語学レベルの問題だけでなく、その文化、社会を知、ていないと無意識に相手に失礼する事が度々です。外国人だから許されるのではなく、距離をおかぬ、親しみにくくなります。

母国を出ると世界が違うから、最初のヶ月はどきどき、わくわく戸惑うばかりです。私は初めて日本に来たのは高校2年の時、ち

もうど夏の2ヶ月半のホームステイでした。

空港で降りたとき、鼻に湿気が匂い、空気が重い感じがし、母国で何も思わず吸っていた空気がこんなに恋しくなるとは思いませんでした。会った人たちは皆ニコニコして、私もその一日中ニコニコ、その次の日、肩、ペタが痛くなっていたのを今もよく覚えています。いい人達ばかりに囲まれて、自分も段々その人達に似てきました。微笑みながらありがとうという言葉が自然に口から零れるようになりました。

モンゴルでは「ありがとう」という言葉は日本ほど忠実に用いられません。例えば友達同士ではありがとうとあまり言いません。言うとは距離を感じられ、おもねった表現になつてしまいます。友達同士がお互いに助け合うことは当然なこと、いつも助け合っているのだから助けられた度に「ありがとう」というのがくどいのかも知れません。

逆に日本では「ありがとう」と言わないと非常

識な人間に思われたいと思います。

このようなギャップがたくさんあるが、その社会のことを何でも勉強し、たくさんコミュニケーションする事で経験を積み、失礼しないように暮らしていきたいものです。

その2ヶ月半を今振り返ると、私の人生を左右する経験となりました。国を2ヶ月離れるだけで、人間の考え方が大きく変わるのだということを実感しました。国で暮らしていた時に全然考えもしなかったことを他の国に来てから考えさせられるのです。この中で生まれた故郷、家族、友達という言葉の本当の意味、大切さを良く理解したような気がします。

また、新しい出会い、違う社会の中で暮らすことで、自分の国のいいところ、悪いところが以前より見えてきます。その土、人は親しい人たちから離れていると敏感になっってしまうため、留学している社会の穴けしているところが見えやすく、感じられやすくなると思

います。

それは、日本に一年間の留学で戻って来たとき、瞬に落ちないところばかり見えて、もう嫌いになったかもしねないと思うようになってしまった時期がありました。

でも夏休みに帰ってきたら、不思議なこと
にいいところも一杯見えてきました。来るた
びに日本じゃなく、私自身が変わってしま
した。

もう一つは私にとって、自立、自分に対す
る責任感、物事に対する判断力が高まると
思います。

外国で一人暮らしをすると色々な面で自分
しか頼れる人はいなくなります。風邪をひい
て熱を出しても、ひいてしまっただのは自分の
責任で甘えてはいられません。自分でなんと
かしなければと道に迷いながら病院へと向か
います。少しずつ強くなっていくのが自立に
繋がります。自分に自信を持つようになります。

日本に学ばされたことがたくさんあります。

日本に留学してこそ、今の自分があると思います。当国が嫌いになるが、好きになるかが問題ではなく、留学することで自分自身を見つけ、物事を色々な方向から見られるようになるのが大事だと考えます。

もちろん、勉強も大事だけど、これより大きな勉強ではないでしょうか。

とにかく、「留学して」私は本当に成長したということを胸をはって言えます。

日本の生活、アルゼンチン風

アルグエロ・ルイス・イグナツオ

日本から、アルゼンチンは一番とおい国です。日本まで、36時間かかりました。着いたとき、いろんな違うところを見ました。日本の建物やけしきや自動はんばい機やえんぴつけずりなどは、私はびっくりしました。国際交流会館へ行、たとき、気持はよかったです。眠るためのベッドにありつけたからです。

一週間あとで、日本語のじゅぎょうが始まりました。色々な国の人がい、たくさん友だちになりました。ほかの国や文化の人たちと知り合いになることは特別なけいけんでした。

先生方はとても親切でがまんづよいです。初めに私はたくさん間違いをしましたが先生方は私にがまんづよくなにかいも説明してくれました。

さいしょに私は話の90%が英語でした。それから日本語がふえました。今、色々なこ

とが分かりませんが、時々^{はや}速く話しかけられると、分かりません。

四月に漢字が少ししか分からなかったからメニューにある食事の名前が読めませんでした。いつも、同じ食事の名前しか言えませんでした。一週間あとで体重が8キロへりました。「日本語を習わなければならない」と考えました。それから、漢字の勉強をがんばったのでほかの食事の名前も言えるようになりました。

その時から日本語が上手になりました。先生方や店員にかんたんな日本語で話すことができるようになりました。けれども、日本人の友だちは私に英語で話して、私は日本語で話したので、会話は少しへんでした。

日本料理はとてもおいしいです。アルゼンチンでも色々なおし屋がありますが高くておいしくありません。さしみやお好み焼やラーメンなど私は日本でほじめて食べました。お好み焼は大好きです。京都へ行ったとき、かん

さい^{3.5}風の お好み焼を食べました。広島風のほうが好きです。

五月に広島大学のラグビー部に入りました。一週間に四回れん習をします。だから、自分の時間があまりとれません。しょうじきに言えば、かれらは、ラグビーがあまり上手ではありませんが、いい友達です。

日本に来てから、五ヶ月がすぎました。時々私はさびしいです。いい友達はひつようです。

今、日本のたてものどけしきに私はおどろかなくなりました。日本で一番ひつようなことは建物ときかいではありません。私にとって日本で一番ひつようなのは日本人です。

『 ヤキマニソバ 』

アレノ・バーホス

マニソバは、多くの人に喜^{よ3に}んで食べられているにも拘^{かか}わらず、あまり知られていないアマゾン地方の食べ物です。アマゾン地方のどこにでもあるマニエバと言う植物の葉をすりつぶし、豚や牛の内臓、耳、しっぽ、鼻と思^おの付くままにほうり込んで、一週間グツグツとにつづけて作ります。

ヤキソバは皆さんよくごぞんじですね。

ヤキソバとマニソバは、全く国籍^{こくせき}の違^{ちが}った食べ物ですが、多くの人に食べられ、好^{この}まれている、という点で似^にているような気がします。私はこの二つの全く異^{こと}なった食べ物を使って、現在ブラジルで、ブラジルと日本の文化や習^{しゅう}慣^{かん}が、不思議な交^{まじ}わりを見せていることを比べて考えます。

私はその不思議な交^{まじ}わりを「ヤキマニソバ」と言うことばにあらわしてみました。「ヤキマニソバ」と言う、私がいっも感^{かん}じる心の状^{じょう}

態は、例えば、私が初めて東京の成田空港に下りた時感じた、不思議な感情。又、ず。と昔、九十六年前に移民としてブラジルに行かれ、今はブラジルの心も合わせ持ちながら、その広い広いブラジルのどこかに住むたくさんの移民の方々が、ご自分の持つ日本人としての心を無くす事なく、異国の習慣に染まり生活しておられる不思議ななりゆき。これを「ヤキマニソバ」と呼ぶことにしました。

今、日本でそのヤキマニソバと同じ感じ、新しい生活を作りたいです。日本で私はブラジル人になりたくないです。日本人にもなりたくないです。日本で地球の市民として、「世界人」になりたいです。本当にそのヤキマニソバの教訓を理解して、それを皆さんに伝えていきたいと思えます。それと同じように皆さんの「ヤキマニソバ」を習いたいです。

広大で世界中の友達ができて、新しくてすばらしい表現を習いました。例えば、アラビア語の sa l a a m - a l e i k u m は「あ

あなたに平和がありますように」という意味です。そのすばらしいあいつの答へのwala e i k u m - a s s a l a a m は「あなたにも平和がありますように」という意味です。他のはスワヒリ語の H a k u m a - m a t a t a は「問題は無い」という意味です。

私達は「ヤスマニソバ」ではなくてはいけません。世界の平和を作り上げていくためには、ことな、た国民としてではなく、この地球の市民として、りん人として、^{いせ}親戚のように兄弟のように、おたかひが「ヤスマニソバ」となって生活していかねばいけません。

それぞれの国、民族のちがいをそんちょうし、何かを学ぼうとする、そして人間らしく生きていく。それが大切なのではないのでしょうか。

「ヤスマニソバ」は私達の^{へんけん}偏見を^{はんせい}反省するためのことばです。

これから、私達は、どこに行っても、こと

ばや文化のちがいを越^こえた市民であるべきだ
と思います。いつも何かを習いつづけるのは
本当にすばらしいです。

この話を日本語のインテンシブ・コースの
先生方々クラスメートにささげます。みなさ
くのおかげで、この「ヤキマニソバ」のすば
らしい経験をしたので、心からがんといた
します。

アテネ・オリンピック

オグウェル・ジョセフ

私はオグウェルです。ケニアからまいりました。アテネ・オリンピックで感じたことについては、びょうします。

テレビでこのしあいを見ました。そのとき、上野さんと北島さんのしょうりの金メダルを見てうれしかったです。上野さんのかみは、さむらいのとおなじに見えました。また、日本のたいそうチームが金メダルをかくとくしたときすばらしいと思いました。

ほかのうんどうも見ました。やきゅうとバム-ボールとバスケットボールなどを見ました。

じょせいマラソンはすごかったです。又デレバさんが野口さんの後ろに乗ったときに私はぞくぞくしました。又デレバさんがまけて私はかなしいと思いました。しかし、「54法も筆のあやまり」といいうことばをおぼえました。こんどのペキン大会で、又デレバさんは

チャンピオンになるかもしれません。

それから3000メートルのきょうそうが
おわったとき私はさけびました。「1-2-3」
ケニアのせんしゅうのしょうりでした。ケンボ
イさんとコイチさんとキプロトさんがつよい
と思いました。

ほかのことはだんせいのサッカーです。イ
ラクとイタリアのチームのどうメダルのしあ
いはよかったです。こうはんがおわったら、
ふくをこうかんしたのでうれしいと思いまし
た。ふくをこうかんするのはゆうじょうをあ
らわすいいほうほうだと思いました。

そして、ぎもんがあります。どうしてせん
しゅうがぎんしされたくすりを使いますか。1
00がハンガリーのアマジュさんをしょうばつ
しました。100とはインターナショナル・
オリンピック・コミッティーのことです。
多くの人がそのもんだいがあるそうです。

さいごは日本のせいこうです。アテネで日
本人のパフォーマンスはすばらしかったです。

いろいろなうんどうがよくできました。どうしてかわかりませんが、たしかにしょうじきとくんれんのびとくです。日本ではいろいろなことすばらしくてふしぎだと思います。(しんかんせんとはしとかんさいこくさいえうこうなど)ほんとうにすばらしいです。

それから、さいさんスポーツもさかんです。

さきに言っ、たびとくはことばにあらわれていると私はかんじます。せかいで日本語はとくべつなことばだと思います。じゅぎょうでいいことばとけんそんのことばをべんぎょうしました。そのことばのびとくがせいこうへつながります。それに、私は、もっと日本語をつづけようと思います。

先生方、クラスメートのみなさん、これで私のはっぴょうをおわります。ほんとうにありがとうございます。

これからもうぞよろしくおわがいたします。

私の国、ケニア

キサンギ・アルバート・カイサ
先生がた、そして、ホストファミリー、学
生のみなさん、こんにちは。

私は、アルバート・キサンギです。ケニア
人です。私は、今年、2004年の4月5日に日
本へ来ました。ここ、オウカザツの夏の私の
サリケムはすばらしいものでした。

私のせんもんは、生物教育です。私は、こ
の10月からこくさいきょうりょくけんきゅう
かでケルキョウをはじめます。

ケニアはアフリカの東部にあります。ケ
ニアは、セキデウのましかたです。ケニアには
かんこうするところかたくさいあります。ケ
ニアたきたらすばらしい「グレートリフトバ
レー」ときれいな山を歩いてフィールドワークを
たのしめるでしょう。ケニアのビーチをきれ
い

ケニアにはたくさいのふざけかあります。で
すからたくさいの言葉があります。たたり

42.3. "と"と42の"と"です。スワヒリゴは、
国の"と"は"と"です。そして、エリゴは、こうよ
う"と"です。

ク=ア人は、おどれたうんどうせしゆか
おおいです。とくとマラソン。そして、アテ
ネのオリンピックで"と"はた"と"さんのメダルを
りました。

ク=ア人は、ほうもんしゅにしんせつで、
ほうもんしゅをあまた"と"むかえます。せひ、
ク=アは"と"と"と"です。そして、ク=アで、
おぼらしい「サファリラフ」あまたのしんせつ
と"と"です。

あ、かとうご"と"りました。

かぞく

マフムード、マフムード

「わたしの名前はマフムードです。わたしはエジプトじんです。わたしはさんじゅうさんさいです。わたしはサッカーが大好きです。しかし、ほんではじかんがないからサッカーをしません。

「わたしの家族はニ人です。かたゝとニどもとわたし。わたしのニどもはさん人です。おすめふたりとおすニひとりです。わたしのうなのおすめはろくさいです。わたしのしたのおすめはさんさいです。わたしのおすニはいっさいです。かたゝはたいがくのせんせいです。かたゝはりょうりがじょうずです。わたしたちはエジプトから、ほんまでしがつひっかまいました。

「まずニくさいヲうりゅうかいかんニすみ、そのあとでさいじょうちょうニひっニしました。いまもまだニニすんでいます。わたしのうなはへんりです。でもとおいです。

今わたしはけんぎゅうせいです。わたしの
せんもんはさかたけのびょうきです。

毎あさはちじぐらゐにだいがくへいきます。
まずせいびつせいさんがくぶへいって、そし
てくじはんたぎょういくがくぶへいきます。
そでにほんごコースがあります。じゅぎよ
うはくじごじっぶんにはじまって、よじごじ
っぶんにおあります。このコースのあとでわ
たしのけんぎゅうしつへいきます。ごごはち
じにわたしはいえへかえります。わたしのばん
ごはんをたべます。ときどきテレビをみます。
じゅうじにねます。

私のうたのおすめはまいにちるじにおきま
す。ろくじはんたたいそうをします。しちじ
にあさごはんをたべます。はちじにうちをで
て、バスでようちえんへいきます。せんじに
かえります。ようちえんではあそんだり、プ
ールでおよんだりします。

家内とごどもはときどきかいものへいきま
す。さいじょうにはたくさんスーパーマーケ

ットがあります。＝どものためのうりばはとこもおもしろいです。

さいじょうはきれいで静かです。だから＝でのせいかつはたのしいです。しかしさいじょうには＝うえんがあまりありませんね。

5か月まえに＝ほんゴのべんきょうをはじめました。わたしは＝ほんゴをたくさんべんきょうしました。でもいままでは＝ほんゴがなじかなじじょうずになりませんでした。だんだんじょうずになりたいです。＝ほんゴはたのしいです。しかしかんじはむずかしいです。＝ほんゴのぶんぽうもむずかしいです。

日本にきたとき、＝ほんゴがぜんぜんわかりませんでした。＝のコースのあとでたくさんシチュエーションでわたしの＝ほんゴがうじるようになりしました。

わたしは今までは＝ほんに＝カゲつきました。が、＝ほんのたべものをまだたべてみていません。さしみのようなたべ物をたべるのはすきではじいからです。生のたべ物には

さしきんがあつてあぶないとおもいます。＝
これはわたしのせんもんです。

日本人はとこもしんせつで、とこもよくて
つだつてくれるし、きょうちょうてぎです。
どうもいろいろとありがとうございました。

箸で食べる

ホサイン

皆さま、こんにちは。私はホサインともうしまよ。私は今年の四月にバソグラデシユから日本にまいりました。私は国で日本語を全ぜんべんきょうしませんでした。広島大学に来てはじめて日本語をべんきょうしました。今私は先端物質科学研究科のけんきゅうせいです。

私が日本語をべんきょうしたまよう室には、留学生が12人いました。じゅぎょうはまいにち、あさの9時50分にはじまって4時50分に終わりました。文法やリーダーのべんきょうだけでなく、ヒヤリングのれんしゅうをしたりしました。私たちはみんな「ヤンサン」のビデオが大まきです。

さて、日本にはいろいろな文化があります。アジアの多くのちいき、とくに「ライスボールカルチャー」とよばれている、日本においては、たいていはあいい、箸をつかっています。

くじをしていきます。しかし、箸のれきしについて、しっている人はとても少ないと思います。箸がさいしょに發明されたのは中国で、およそ5000年前になります。

箸は二本のほそながい木をつかうことが多
りです。たけをつかうことがいっぱいあります
が、ほかのしゅるいの木をつかったり、プ
ラスチックやポリセリン、動物のほねなどをつ
かうこともあります。しかし、食べものの
どくにはんのうして、色が変わるということ
から、こうていやじょこの箸にはぞうげが
つかわれていきます。

日本人は箸で食べものをたべます。すしや、
そばや、やきそばかななど日本のりょうりのほ
とんどは箸をつかってたべます。また、おべ
んとうをかったときは、わりはしをくれます。
この箸はつかいやすくてなのでせいけつです。じ
ぶんのうちでは、ふつうの箸をつかいます。
ふつうの箸は、何回もつかいます。たいてい
のうちではかぞくの箸がきまっています。お

父さんはながい箸、子どもはみじかい箸、お母さんの箸はきれいなもようがある箸などです。

私はくにで箸をつかったことがありませんでした。私はホストファミリーのいえではじめて箸をつかいました。はじめは箸でたべるのはとてもあずかしかったです。私のホストファミリーのお父さんが箸のつかい方をおしえてくれました。ですから、いまは箸でじょうずに何でもたべることができます。皆さまはじぶんのナイフやフォークがありますか。

このスピーチは日本語けんしゅうコースのさいごのけんしゅうです。わたしの日本語はいかがでしょう。先生がた、ホストファミリーのみなさま、いっしょに日本語をべんきょうしたみなさま、いろいろとありがとうございました。いつかまたお会いしましょう。お元気で。